

Ⅸ ヘルスケア産業の創出に向けて

1. ヘルスケア産業分野の現状

健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現に向けて、ヘルスケア産業分野の活性化への期待も高まっています。健康寿命延伸分野の市場創出および産業育成は、国民のQOL（生活の豊かさ）の向上、国民医療費の抑制、雇用拡大および我が国の経済成長に資するものと考えられます。経済産業省は、平成25年4月に「次世代ヘルスケア産業協議会」を設置し、関連施策を推進しています。

1) アクションプラン2016の基本的な考え方

次世代ヘルスケア産業協議会では、平成28年4月に策定した生涯現役社会の構築に向けた「アクションプラン2016」*1の基本コンセプトにおいて、“国民が健康を管理する習慣を持ち、健康を維持することで長期に亘る社会参加を可能にし、社会への関わりが更なる健康の維持に役立つという正の循環を実現することが、理想の成熟社会を実現する鍵となる”としています。その上で、健康経営を強力に推進するとともに、健康増進や社会参加を支えるヘルスケア産業育成に取り組んでいくことが必要であるとしています。

2) 地域資源を活用した新たなヘルスケア産業の創出について

アクションプラン2016では、ヘルスケア分野は、様々な異分野連携が必要であり、地域資源等を活用しながら、地域住民の生活に近いサービスを創出していくことも重要な要素のひとつとして、次のような対応策が例示されています。

① 「食・農」×「健康」による新たなヘルスケア産業の創出

既存コホートや食習慣の情報集積・活用や地域関係者の連携による推進

- ・ 地域食品事業者と連携した食サービスの提供
- ・ 健康増進に資する農林水産物の生産・活用促進
- ・ 生活習慣を考慮した食育の推進 等

② 「観光」×「健康」による新たなヘルスケア産業の創出

地域資源を活用した健康増進等に資する商品開発を支援

- ・ スマートライフステイの保健指導効果の検証
- ・ ヘルスツーリズムの品質認証制度の構築
- ・ 商品開発やマーケティング、実証実験、販売促進活動支援

③ 「スポーツ」×「健康」による新たなヘルスケア産業の創出

- ・ 地域スポーツコミッション等を通じた地域住民参加型のスポーツイベントやプログラムの開発
- ・ ワークスタイルの中に運動等を取り入れた新たな取組支援

*1 平成28年4月次世代ヘルスケア産業協議会「アクションプラン2016」

2. 分析結果からみるヘルスケア産業への期待

1) 分析結果からみる主な健康課題

本書「Ⅲ 全体の健康状態」から「Ⅷ 高齢世代（65歳以上）の健康状態」で分析した結果、それぞれの属性における「食事や運動等の生活習慣」や「健康状態や健康への意識」に係る次のような傾向がみられました。

【表Ⅳ-2-1 分析結果のまとめ】

属性	主な傾向	
Ⅲ 全体	運動傾向	年代が上がるにつれてテレビ・雑誌等をきっかけに運動を始める人が多く、65歳以上の約4割が週3日以上運動しており、中でもウォーキングを実践する人が最も多い。
	運動効果	39歳以下の女性はスタイルの維持改善、40歳以上の男性は生活習慣病予防、65歳以上の女性は介護予防を期待する人が多い。
	お弁当の購入基準	男性の約半数は栄養成分表示を参考にせずボリュームを重視、女性は栄養バランスを重視。
	外食習慣	京都中央地域の約4割が週2回以上の外食頻度。
	喫煙習慣	喫煙者の約7割が喫煙をやめたい、または本数を減らしたいと思っている。
	睡眠習慣	睡眠による休養が取れていない人ほどストレスが多い。
	ストレス	20～39歳の女性の約8割がストレスを感じており、どの年代も男性より女性の方がストレスが多い。男性は仕事、女性は家族の健康、65歳以上は健康・病気の不安がストレスの原因と感じる傾向にある。
	飲酒習慣	40歳以上の男性は半数以上が週に5～6日の飲酒頻度、約2割が摂取目標量を超過。
Ⅳ 社会人	運動習慣	管理職は最も肥満の割合が高く、事務職は肥満の割合は低いものの運動しようと思ってもできない人が多い。若い世代の女性の歩数が少ない。
	飲酒習慣	40～64歳の男性の約2割が摂取目標を超過、男女とも40歳を超えると飲酒頻度が高くなる。年代が上がりストレスが多い人ほど摂取目標を超過、特に40歳以上の女性ではストレスと飲酒の関係が強い。
Ⅴ 未成年	ダイエット	15歳以上の女性の半数は体格が普通なのに肥満と感じている。
	食習慣	15歳以上の約2割が家族そろって夕食を食べていない。
	野菜摂取	家族そろって夕食を食べる頻度が高いほど野菜の摂取頻度が高い。
	朝食習慣	年代が上がるごとに朝食を食べない人の割合が増え、高校生では1割程度が朝食を食べていない。
	食習慣	ほぼ毎日肉を摂取する人は約4割、魚介類は1割程度と摂取頻度に偏りがある。

属性	主な傾向	
Ⅵ 若い世代 (20～39歳)	ダイエット	男性は女性の約3倍肥満の割合が高い。
	健康意識	健康づくりへの関心がある人は約8割、最も関心が高い家族構成は夫婦のみの世帯。
	食意識	約8割の人が1日1回以上は野菜をたっぷり食べるが、食品組み合わせをよく考える人は2割程度しかいない。
	食習慣	ひとり暮らしの単独世帯は食事時間が不規則な人が多い。
	健康診断	女性の半数近くが未受診であり、費用がかかる、関心がない・面倒である、時間がないといった理由が多い。
Ⅶ 中高年世代 (40～64歳)	生鮮食品 購入頻度	同居世帯の女性の生鮮食品の購入頻度は高い。 ひとり暮らしの男性の約7割は購入頻度が週3日以上と高い。
	運動習慣	高血圧を指摘された人のうち半数以上が、時間に余裕がない・何をしてもよいのかわからないという理由で運動していない。
	健康診断	55歳以上の男性の半数以上が高血圧の指摘を受けている。
	食塩摂取	高血圧を指摘された男性のうち食塩摂取量に気をつける人は2割程度。
	野菜摂取	脂質異常を指摘された人は男性より女性が多く、指摘された人のうち野菜をたっぷり使った食事を1日3食ともとる人はほとんどいない。
	食意識	高血糖を指摘された人は、指摘されていない人よりも食品の組み合わせや食事量を考える人が少ない。
Ⅷ 高齢世代 (65歳以上)	食習慣	年代が上がるにつれて乳製品や肉の摂取回数が減少傾向にある。
	ストレス	高齢者の半数がストレスを感じ、年代が上がるほど相談相手が減少傾向にある。
	社会活動	特に男性の半数が社会や地域・家庭での役割がないと感じている。
	口腔ケア	口腔ケアの頻度が高い人ほど歯の残存本数が多い。

2) 新たなヘルスケア産業の創出

本書では、得られた健康課題を解決するために（1）食品・食材の工夫、（2）機器・用品による支援、（3）アプリケーション開発、（4）場や機会の提供、の4つの分野を軸とした産業創出の事例を挙げています。新たな商品開発だけでなく、既存商品の改良やサービス対象の見直しも、健康課題の解決に向けた重要なアプローチとなります。

併せて、経済産業省が「アクションプラン2016」に掲げているような、農業・観光等の地域産業やスポーツ関連産業等との連携により、地域住民の生活に近いサービスとして広く活用されるヘルスケア産業の創出を期待しています。

【図Ⅸ-2-2 産業創出に向けた主な分野のイメージ】



~ MEMO ~

